

八王子支部移転に市民の強い危機感

——首都圏弁護士会支部サミット「語り合おう、市民が主役の裁判所！」

●弁護士会支部が一堂に会し、市民と共に考える

2004年12月4日午後2時から、八王子市クリエイティブホールにて「第二回首都圏弁護士会支部サミット」が開催された。

首都圏にある裁判所支部では、人口が急増し事件数も大幅に増加しているにもかかわらず、司法インフラの整備が追いつかず、利用者である市民が不利益を受けている。そこで、これら支部の弁護士会が一堂に会して、各地の問題点を広く市民に訴え、共に考え、市民の司法を実現する場として、前年の川崎に引き続いて開催されたものである。

地味なテーマであり参加者数が心配されたが、170名の定員を大幅に上回る260名もの参加を得て、補助椅子も不足し、数十名が立ち見となるほどの大盛況であった。事前に記者懇談会を開催し、各紙地方版に記事を掲載してもらった効果も大きかったと思われる。



寸劇シーン 家裁待合室での夫婦トラブルの場面

●好評！寸劇「八王子の裁判所へようこそ！」

冒頭的主催者・後援者挨拶の中で、黒須隆一八王子市長から、130年間も八王子に裁判所が存在してきた重みを考えてほしいとの発言があった。

次いで、東京三弁護士会多摩支部会員の企画・演出・出演による寸劇「八王子の裁判所へようこそ！」が行なわれた。

バスガイドならぬ「裁判所ガイド」の案内に導かれて、家裁の待合室、地裁の民事法廷、接見の3シーンが披露された。当事者間のトラブル、調停室不足・裁判官不足による期日の入りにくさ、検察官不足による勾留延長の常態化などの問題が、ユーモラスに演じられた。厳しい指導のもとに稽古

を繰り返してきた出演者は、当日はとっておきのアドリブも駆使していた。アンケート結果も、「問題提起として非常に良かった」「セミプロ級の出来でした」「おもしろくてとてもわかりやすかった」などと、極めて好評であった。

●パネルディスカッションで問題提起

基調報告の後、パネルディスカッションが行なわれた。

横浜弁護士会相模原支部、千葉県弁護士会松戸支部、多摩支部の各代表が、合議制の不存在、雨漏りだらけの庁舎、裁判官等の超多忙状況、120万人の人口を抱えながら裁判所支部すらない千葉縣市川・船橋地区の状況など、各地の問題点を訴えた。

また、日弁連裁判官制度改革・地域司法計画推進本部からの出席を得て、市民の司法実現の観点から、裁判官・検察官の大幅増員の必要性等が訴えられた。

●“もっと議論をしたい”市民の熱意ひしひしと

会場発言では、やはり東京地・家裁八王子支部の立川移転問題に絡んでの発言が多かった。福岡県弁護士会北九州部会からの出席者は、「小倉支部の本庁化を地域一丸となって推進している。最大の支部である八王子支部の本庁化を強く進めてほしい」との熱弁が奮われた。また、DV・女性問題の視点から「近くの八王子にも家裁支部を残してほしい」等の意見が出された。アンケートの結果では、パネルディスカッションの「時間が少ない」との意見が多く、もっと議論をしたいとの市民の熱意が感じられた。

最後に、集会宣言が採択された。今年もこのサミットを開催する予定である。当日の様子は、NHK首都圏ニュースで放映された。

■参加支部

東京三弁護士会多摩支部、横浜弁護士会川崎支部・県西支部・横須賀支部・相模原支部、埼玉弁護士会川越支部・越谷支部・熊谷支部、千葉県弁護士会松戸支部・市川・船橋支部

(多摩支部・首都圏支部サミット実行委員会事務局長
中村 一郎)